

誰もが多様性を認め、安心して学校生活を
過ごすことができるよう、まずは知ること、
そして何ができるのか考えてみませんか。

しょう いち
山口 颯一

LGBTアドバイザー
一般社団法人ELLY代表理事

プロフィール

▶三重県出身

- ・1990年2月25日女性として生まれる
- ・18歳 男性ホルモン注射開始
- ・20歳 性別を女性→男性 変更

▶講演家

- ・2014年5月～講演会開始
- ・講演：LGBT/性の多様性/過ごしやすいまちづくり
- ・年間200回以上の講演実績
- ・地元三重県にLGBT相談窓口を設置
- ・三重県伊賀市同性パートナーシップ制度 アドバイザー

▶経歴

- ・24歳 一般企業に勤めながらLGBT講演会を開始
- ・26歳 一般社団法人ELLY設立
企業向け社内研修、教育機関への研修、まちおこしを主に行う。
「わかりやすくってポップな講演会でおもしろい!」とロコミで話題に。
設立1年目には年間200本以上の講演依頼を受ける。
NHKなど各種メディアにも取り上げられる。
- ・27歳 三重県男女共同参画社会推進協議会委員 任命
- ・28歳 トンボとアドバイザー契約を結び、LGBTに関する知見やノウハウを提供し、それに基づいた商品開発に参画。
- ・29歳 IGLTA世界会議に奨学生として世界で7人中1人に選ばれる。
- ・30歳 東京2020オリンピック聖火ランナーに選ばれる。

カミングアウトは 自分を楽にする ものでもある

—— 山口さんのことを教えてください。

山口 僕は女性として生まれ、今は男性として生活している。トランスジェンダーです。物心ついた時から、すでに「自分は男だ」と思っていました。でも、親や先生からは「もっと女の子らしく」と言われ続け、それから嘘をつき始めました。もともと周囲に気を遣う性格だったので、カミングアウトしたら「嫌われる、いじめられる、疎外される」と勝手に想像し、誰にも相談できませんでした。小・中学生の頃は嘘をついて生きていたことが一番辛かったです。

「性同一性障がい」について知り、ネットで調べて、自分のことがはっきりわかりました。それまで、学校で教わることは「男女について」とか「異性愛が正しい」ということばかりで、自分を否定されているようでした。人に言えない気持ちを自由帳に殴り書きして、ビリビリに破いて発散していました。嘘をついている罪悪感から毎日が楽しくなくなりました。

—— 初めてカミングアウトしたのはいつですか？

山口 高校2年生の時です。修学旅行前にごく親しい数人の友達に言いました。その子たちといる時だけ、自分の居場所があるという感じがしました。ここだけは嘘をつかずに生きていける、相談することの

楽さを初めて知りましたね。当時は大人が怖かったですが、保健室の先生にだけは相談することができました。

その後、公言したのは高校の卒業式でした。ネットで僕と同じ境遇の人たちが同窓会や成人式に行きづらいと書いていて、大人になってまで、コソコソ生きたくないと思っただけです。どうせ明日から会わないし、いじめられることもないと思ったので、100人くらいに言っただけで済みました。でも数年経った成人式で同級生に会った時、みんな受け入れてくれて、**カミングアウトは僕にとって自分を楽にするものでもあるんだな**と感じましたね。

—— 学校制服に関してのエピソードも教えてください。

山口 制服についても色々な葛藤がありました。中学校に上がると制服を着用する必要があります。でも、どうしてもスカートが嫌で、中学をどう過ごしていくか想像できなかったんです。担任の先生にも相談しました。すると「女の子はスカートを履くのが当たり前だ。それがルールだ。」と頭ごなしに言われ、相談しても無駄なんだ、大人に言っても意味がないんだと痛感しました。このことがきっかけで、それまで抱えてきたものが自分の中でキャバオーバーになって、屋上から飛び降りようとも考えました。たまたま自分の姿をみた友達が止めてくれたおかげで今があります。その時は本気で死なした。

「3年間だけだし」と、自分に無理やり言い聞かせてスカートを履き、人前では明るく元気に振る舞っていましたが、本音は全然

楽しくなかったです。高校選択も、なりたいた将来像に合わせて進路を選ぶのが本来だと思いますが、僕の場合は制服の見た目で決めました。とにかくセーラーが嫌なので選択外。膝丈のスカートも短いので嫌。結局スカート丈が長いところを選びました。丈が長ければ、肌の露出も少ななくて済むじゃないですか。ただそんな理由で高校を決めて、その学校に入るために勉強もめちゃくちゃ頑張りましたね。



制服はあった方がいい

—— これからの制服はどうあってほしいですか？

山口 結論から言えば「**選択できる**」ようになってほしいです。制服をなくせばいいという意見もあると思いますが、**制服はあった方がいいと僕は思います**。私服の学校に通っていた^{※1}FtMの友達が「私服こそ男女差が出る。またいつも同じ服と違うわけにもいかなから、お金もかかる。結構大変だった。」と話していました。スカートは嫌ですけど、ぶっちゃけ日常的に履いていたら慣れてくるんですよ(笑)。

以前までは私服か制服だったのが、今は制服でもスカートもスラックスもある。僕の時はその選択肢はなかったたので、すごくいいですね。

—— 最後に全国の学校・教育関係者の方々にメッセージをお願いします。

山口 LGBTについて知る機会を作る側でも、参加する側でもいいので、**知らなかったら、ぜひ知っていただく**。子どもたちも時代的背景によって、抱えている悩みは違うと思いますが、もっと視野を広げてほしいと思います。また、講演会では必ず話をしますが、**探してほしいからこの話をするわけではありません**。よくスラックスを履いているからといってトランスジェンダーと思込む方がいらつしやいますが、足を見せたくない子、スカートが嫌いな子、寒いからなど、理由は様々だと思えます。それぞれの**コンプレックスを解消するひとつとして、スラックスが浸透していけばいい**ですね。理想の制服像で「選択制」をあげましたが、選択制を導入しただけでは意味がないと思っと思っています。導入したけど、相談しやすい環境がなく、結果不登校となってしまうのは根本の改善には繋がりません。**相談できるという背景が大事**で、そのために僕たちが活動しています。僕の最終目標はLGBTについての講演会をしなくなる事です。それだけ「LGBT」という言葉や「性」のあり方は多様「なことが当たり前」にあふれている世の中にするのが目標です。

※1「FtM」生物学的には女性、性自認は男性の方